



Ehime  
Global  
Network

# 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク 2022年度 事業報告

Think globally, act locally and change personally!



本部事務所(四国 EPO 愛媛デスク)  
〒790-0803 愛媛県松山市東雲町 5-6  
TEL : 089-993-6271  
FAX : 089-993-6227  
E-mail : wakuwaku@egn.or.jp

四国 EPO 本部・四国 ESD センター  
香川県高松市寿町 2 丁目 1-1 高松第一生命ビル新館 3F  
TEL : 087-816-2232

四国 EPO 徳島デスク  
徳島市西新浜町 2 丁目 3-102 エコみらいとくしま内  
TEL : 080-4035-4593

【EGN】 <https://www.egn.or.jp/>  
【武器アート】 <http://mozambique-art.com/>  
【シヨピファイ】 <https://wakuwaku-cafe.org/>

四国 EPO 高知デスク  
高知市旭町 3 丁目 115 こうち男女共同参画センター3F  
環境の杜こうち内  
TEL : 080-4998-4592

【四国 EPO】 <https://4epo.jp/>  
【四国 ESD センター】 <https://shikoku.esdcenter.jp/>  
【LS 四国】 <https://ls.459.net/>

# 目次

総括・挨拶	1
<b>I. 国際協力事業</b>	
1. モザンビークにおける国際支援活動	3
2. モザンビークに関する国内交流活動	4
3. フェアトレード普及啓発	5
<b>II. 環境保全事業</b>	
1. 環境省・四国環境パートナーシップオフィス企画運営等事業	6
2. 日本 NPO センター・グリーンギフト支援	11
3. 環境再生保全機構・地球環境基金助成金説明会の開催	12
<b>III. 教育・ネットワーク事業</b>	
1. 四国地方 ESD 活動支援センター事業	13
2. 外務省 NGO 相談員業務	15
3. JICANGO 提案型事業・多文化共生型の減災社会づくり実践研修	16
4. 愛媛県・えひめ森林公園 ESD プログラム実施業務	18
5. 東雲 ESD コミュニティファーム活動報告	19
6. 講師派遣および持続可能な開発のための教育（ESD）普及啓発	20
7. 協働オフィス運営と中間支援機能強化について	22
<b>IV. 管理運営等</b>	
1. 組織運営	23
2. 決算報告	24
3. 監査報告	31
4. 広報活動	32

## 2022年度 総括

会員の皆様、関係者の皆様には、日頃より当団体の活動へのご理解・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2022年度のモザンビーク支援事業では、シニャングアニーネ村公民館の管理と保全、農業活動支援、フェアトレード商品づくりなど、現状維持の活動が中心となりましたが、予定していた「自立的な運営サポート」を実施しました。しかし、携帯の破損により連絡が途絶えたり、天候によってソーラーで充電できないと携帯が使えなかったりと、連絡が途絶えることも多く、今後も引き続き自立支援を実施する上で、通信インフラの整備、改善は不可欠であることを痛感しました。

また、年度内に現地に赴く機会を設けるかどうかを検討している最中に世界最長記録となった「サイクロン・フレディ」が発生しました。ブーメランのように再来し、モザンビークだけではなくマダガスカルやマラウイにも甚大な被害をもたらし、渡航のチャンスを逸してしまいました。中学生が中心となって活動を始めた「Bridge of friendship」に加え、新たに松山北高等学校に「モザンビーク支援班」が立ち上がり、それぞれ募金活動を行うなど、松山市内での支援の輪が広がりました。このサイクロン発生前に、木村元・在モザンビーク日本大使館特命全権大使が来県され、「市民活動 25 周年記念」として交流会を開催したほか、新玉小学校で「外交官の仕事」というキャリア教育にもご協力頂き、当団体のモザンビーク ESD 実践を今後ともさらに充実させていく価値を再確認する機会となりました。

他方、外務省 NGO 相談員事業、環境省四国環境パートナーシップオフィス企画運営事業、地球環境基金助成金説明会開催事業、JICA 多文化共生型減災社会づくり事業、えひめ森林公園 ESD プログラム実証事業、など多数の受託事業については、それぞれの企画内容や目標設定に応じた活動展開を実施・達成することができたと考えます。

四国 4 県で事務局運営を行い、スタッフの交替があってもスムーズに運営できるよう事務のマニュアル化、情報の共有化を進めました。

特筆すべき「ローカル SDGs 四国 (LS 四国) の展開については、環境省四国事務所や脱炭素チームの自治体訪問などの機会に呼びかけたことが功を奏し、会員数が昨年度の 2 倍以上となりました。環境省が示す『地域循環共生圏』の考えに沿い、関係省庁、自治体、企業、金融機関、大学、NPO 等の多様な主体との連携に取り組みました。

また、当団体が注力している ESD については、四国 ESD センター業務を通じて、四国で 88 力所の ESD 拠点登録を目指し、今年度、新たに 3 団体が加わりました。どこでもいつでも学べる「ESD バーチャル大学」の実施、「ESD カレンダー」作成、「四国 ESD フォーラム」では新居浜市との連携を深めるなど、四国ならではの ESD の取り組みを全国に発信することができました。このほか、個別事業の活動詳細については、ぜひ本報告書をご一読下さいますようお願い致します。

当団体事務所に隣接する東雲公園において、えひめ 311 や森からつづく道と連携し、東雲小学校 2 年生を対象に継続展開をしている東雲公園コミュニティファームの ESD 実践についても、今年度は愛媛新聞で紹介されました。地道な市民活動に目を向けて頂く機会を得て、SDGs の取り組みは、決して大きな課題に立ち向かうだけではなく、身近なところで、手の届く範囲で始められる、そして、継続していくことが大事であるといったメッセージを伝えられたのではないかと思います。

2022 年度も、会員の皆様のご協力、理事・スタッフ・ボランティアの皆様からの日々の下支えがあつて諸活動を展開することができました。皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  
代表理事 竹内 よし子



### 【ビジョン】

あらゆる人々が、人として平和な日々をおくることができる持続可能な社会を実現すること

### 【ミッション】

1. 人として対等な立場で支援を必要とする人々の社会的・経済的自立を援助するため市民参加による国際協力活動を実践すること。
2. 国際協力活動を促進し、多文化共生社会を実現するため地球市民教育の普及に取り組むこと。
3. わたしたちのビジョンを追求するため地域・国内・海外の市民や諸団体とのネットワークを構築すること。



## I-1. モザンビークにおける国際支援活動

今年度のモザンビーク支援事業では、シヤングァニーネ村の公民館を拠点として活用しながら、どのような作業が自主的・自立的に行われ、自分たちの手によって新たな事業への展開や可能性を探ることができるか、SNS による連絡調整しながら「自主的運営サポート」を実施する1年となった。

これまでシヤングァニーネ村で培ってきた研修実績や村人たちとの信頼関係を下に、現地から当団体に送られた写真の一部を実績報告として紹介する。



## I-2. モザンビークに関わる国内交流活動

### 「イラーリオさんとのオンライン交流会」開催

8月にはモザンビークのイラーリオさんとマテウスさん、新玉小学校5、6年生とオンライン交流会を実施した。交流会参加者総数は、48名（新居浜13名、松山21名、オンライン14名）、多世代（小学校～70代後半まで）で、多拠点（全11箇所：モザンビーク2か所、新居浜市、伊予市2か所、松山市4か所、東京、奈良）をオンラインでつなぎ、多分野（パラ選手、小・中学生、高校生、大学生、教員、県庁職員、NGO、高齢者、メディア、医療関係者、製造メーカー社員、団体職員）の人々が多言語（日本語・英語・ポル語）でコミュニケーションを図り、交流を深めることができた。

交流会前には新玉小学校からの参加者に交流会の説明やBridge of friendship(Bof)の活動の説明を行い、新玉小学校在校生とともに交流会を盛り上げた。



モザンビークからの参加  
イラーリオさん(右)とマテウスさん(左)



新玉小学校の生徒に  
Bofの活動を紹介するメンバー

### 第8回「モザンビークデー」開催

2022年10月2日(日)にえひめグローバルネットワーク、日本・モザンビーク市民友好協会の主催で第8回モザンビークデーを開催した。オンラインと会場のハイブリッドで開催、26名が参加した。

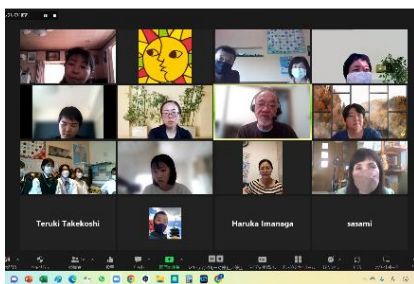
全参加者からの自己紹介の後、えひめグローバルネットワーク、Bof、モザンビークSDGs勉強会のそれぞれからモザンビークと愛媛のつながり・活動紹介を行い、これまでの活動と成果報告、2022年度の活動計画の報告を行った。

また、栗田英幸・愛媛大学国際連携推進機構准教授よりモザンビーク訪問直後の帰国報告として、モザンビークの眼の疾患の現状と改善に向けた取り組みが紹介され、愛媛大学の協力によるルリオ大学でのトレーニングの様子が説明された。

モザンビークの街の様子や現地でも感じたことなども参加者に共有頂き、参加者が興味深く聞き入っている様子が窺えた。



会場の様子



オンライン交流の様子

### 洪水支援

2023年2～3月、約1ヶ月間に2度も来週したサイクロン・フレディの影響でモザンビークは、深刻な洪水被害を被ったことから、現地の情報収集を行うとともに、ユースを中心に募金活動を行った。





## ユース交流会・25周年交流会

2023年2月8日、木村元・在モザンビーク日本大使館特命全権大使を迎えてユース交流会を主催。Bofのメンバー5名と松山北高校の笑顔グローバル海外研究部・英会話部モザンビーク支援班11名がそれぞれ活動紹介を行い、モザンビークとの今後の関わりについて発表を行った。

ユース交流会の後、市民活動25周年記念交流会を開催した。木村大使にご臨席頂き、これまでモザンビーク支援に関わってくださった関係者18名と歓談し、愛媛とモザンビークの友好を深める機会となった。



ユース交流会



市民活動25周年記念交流会



## Bridge of friendship(Bof)活動支援

Bridge of friendship (Bof) は「モザンビークを豊かにすることを」を目的とし、2022年3月に新玉小学校の卒業生7人で発足したNGOで、会議場所の無償提供、各種連絡調整、助成金獲得に向けた支援を行い、松山市の助成金を獲得し年間を通じた活動を支援した。

特に、在モザンビーク日本大使館、在日モザンビーク大使館、新玉小学校等の協力を得ながら、「モザンビークノート」と「まつやまノート」作成事業を実施するにあたり、当団体は、約半年間、モザンビークSDGs勉強会とともに写真や情報データの提供、著作権許諾申請、両大使館との連絡調整、冊子全体の編集サポートを行った。



インタビューを受けるBofメンバー



クリスマスイベントで作ったもの



モザンビークノート、Matsuyama/Ehime JapanNote作成



## I-3. フェアトレード普及啓発

県内高校の文化祭での販売および一村一品（成田空港・関西空港）での常設販売を実施し、モザンビークで女性グループの手仕事の様子などをPRすることができた。

また、消費者教育の講演において、フェアトレードやフェアトレードタウンへの取り組みを紹介し、消費行動の見直しによる公正な社会づくりへの参画がかのうであることをアピールした。

## II-1. 環境省・四国環境パートナーシップオフィス企画運営等事業

本事業は、環境省が設置した四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)の受託事業である。持続可能な社会を構築する上で、さまざまな主体による環境保全活動や環境教育、協働取組の重要性を軸に、下記の事業を実施した。

### (1) 中間支援機能の強化

各県サテライトデスクを拠点とした体制により、県が主催する委員会の委員や審査等への協力、多様な主体との協働で事業を実施することにより、相談対応に活かせるニーズやシーズなどの情報収集、関係性が構築できた。



「令和4年度第1回高知県環境審議会」  
(オンライン)



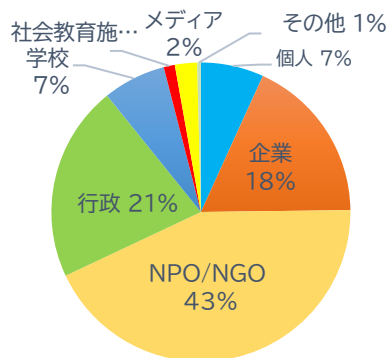
6主体共催による気候変動講演会  
(香川県高松市)

### (2) 相談対応及び情報収集・発信

企業からの研修依頼や相談対応が増え、今まで以上にSDGsや脱炭素への機運の高まりを感じる1年だった。行政との連携により相談対応から発展的展開につながる事例もあった。



企業の取組方向性に関する相談  
(オンライン)



メルマガ、  
Facebook、  
Instagram  
でも発信中！



季刊誌「しこくえぼ」(年4回発行)

月平均80件弱のイベントや助成金などの情報、月イチおすすめなどを掲載！「四国のおすすめ」(特徴のある活動紹介記事)は、英語、中国語でも発信中！



### (3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

#### ア 環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

2022年度支援先団体として、NTTコミュニケーションズ（株）四国支社（活動地域：愛媛県鬼北町）、（特非）大月地域資源活用協議会（活動地域：高知県大月町）が採択され、伴走支援を行った。

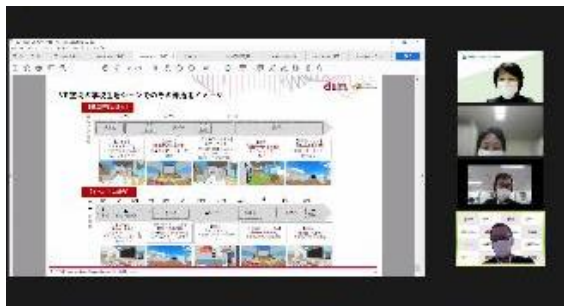
#### NTT コミュニケーションズ（株）四国支社

##### 活動テーマ：「コワーキングスペースを核とした交流人口拡大」

2022年5月にオープンした JR 近永駅に隣接するコワーキングスペースをベースに、人の流れなどのデータ分析を行いながら、交流人口を拡大する取組を推進します。コワーキングスペースの活用やワーケーションの可能性を学び、先進的な取組の視察などを通して、鬼北町の地域資源を活用したコンテンツの形成を行った。



ヒアリング（愛媛県鬼北町とオンライン）



毎月開催PF事業（鬼北町）定例会



コワーキングスペースおよびサテライトオフィスの活用学習会・意見交換会

#### NPO 法人大月地域資源活用協議会

##### 活動テーマ：「地域資源の価値を持続可能な形で伝え、豊かに暮らす」

NPO 法人大月地域資源活用協議会を中心に、大月町の恵まれた地域資源を活かし、個人で取り組んできた活動をつなぎ、大月の自然と共存・保全しながら森と関わる人がぼちぼち暮らしていける町を目指して、取組を進めています。今年度は、森のようちえん、広葉樹活用学習会など、山に興味を持つ人を増やす事業に重点を置き、活動した。



ヒアリング（高知県大月町）



毎月開催PF事業（大月町）定例会

事業化支援団体「かみかつ茅葺き学校」（徳島県上勝町）に対しては進捗状況の把握を行った。

## イ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

2021年2月17日に設立したローカルSDGs四国（LS四国）の運営を行った。

### （ア）LS 四国の企画・運営委員会及び総会

LS四国規約に基づき、会を運営し、企画及び運営に必要な事項について役員の手続きを得て進めた。



「企画・運営委員会」開催（オンライン）

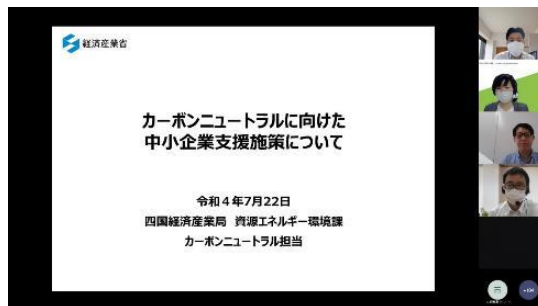


「LS 四国令和3年度総会」開催（オンライン）

### （イ）森里川海推進ネットワーク形成会合及びフォーラムの開催

#### ■LS四国地域脱炭素推進フォーラムin四国（オンライン）

四国各県の企業の脱炭素やSDGsにおける自社事例の発表後、司会が進行する形で質疑応答を行い、取組の背景等を深掘りする機会となった。また、各省庁による助成金等の支援施策も紹介した。



#### ■森里川海ネットワーク形成会議（徳島県那賀町、オンライン）、橋本林業現地視察（徳島県那賀町）

環境省担当者からのOECMを巡る動向の説明、四国各県で森里川海の保全に寄与する取組の事例発表により、持続可能な地域づくりを見据えた地域におけるOECMのあり方を考える機会となった。





## (ウ)表彰制度の実施

LS 四国のビジョン・行動指針の内容に即し、ローカル SDGs（地域循環共生圏）の考え方に資する優れた事業・取組を表彰し、広く紹介することを目的に募集を行い、審査会を経て、賞を選定した。



第2回 LS 四国表彰審査会  
(オンライン)

### ◆ローカルSDGs四国大賞 / ユース部門優秀賞

愛媛県立長浜高等学校（愛媛県）「長高水族館」

### ◆地域課題解決部門賞

（株）那賀ウッド（徳島県）「木や森林を活用した林業6次産業化事業」

### ◆チャレンジ部門賞

愛媛大学附属高等学校 理科部プラガールズ（愛媛県）

「瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染調査とその対策に向けた研究」

### ◆審査委員特別賞

（株）パブリック（香川県）「SDGsを通して持続可能な世の中を次世代に繋げていく社会作り」

（特非）由良野の森（愛媛県）「ブナの森づくりプロジェクト」

表彰式では、基調講演、受賞団体による取組発表と表彰の授与を行った。



受賞団体による取組発表



受賞団体による記念撮影



今年の賞状も、高知県立伊野商業高等学校の協力を得て作成した土佐和紙を使って作成！



## (工)LS 四国の事務局の運営

新規会員の登録作業、LS 四国会員のメリットとなる企画や運営、分科会活動の支援等を行った（2023年3月27日時点：会員数は、団体173団体（+98）、個人4名（+1）、協力機関15機関（+1）、アドバイザー3名。※2022年3月8日データと比較）。

LS四国の入会（会員登録）をお願いします！

会員になると（以下、一例を示す）

- 情報収集・共有・発信ができます！
  - ・国などの補助金の情報がタイムリーに届きます。
  - ・SDGs・地方創生等の取組の情報が知れます。
  - ・自団体のSDGs・地方創生等の取組を発信できます。
- マッチング・仲間作りができます！
  - ・分科会活動と一緒に取り組む仲間ができます。
  - ・課題解決、取組促進に当たってのニーズを持った方との出会いの場を提供します。
- 会費は無料です。

※会員になっていただいた後の負担はございません。

**会員登録はこちら！！**

以下のリンクもしくはQRコードの「入会申込書」に必要事項を記載の上、LS四国事務局 info@ls459.netまでご提出ください  
[https://ls459.net/?page\\_id=51](https://ls459.net/?page_id=51)

ローカルSDGs 四国  
 いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

ローカルSDGs 四国 取組紹介動画公開についてお知らせ

2022年3月27日付「取組紹介」動画が、YouTubeに公開されました。

県庁から分科会事務局が制作した「ローカルSDGs 四国」の動画が2月17日に付き（1月25日）が発表された。この年輩で新たな仲間が加え、新たなつながりが生まれました。この動画には、分科会事務局の活動が紹介されています。ぜひ、ご覧ください。

月平均 40 件弱のイベントや助成金などの情報を掲載！

LS 四国の原動力・実行役になっている「分科会」は 6 つあり、地域課題解決に向けて、それぞれが自立して運営されている。

- ・ 四国 ESD チーム
- ・ 地域エネルギー分科会
- ・ 多文化共生型の減災社会づくり分科会
- ・ 南海トラフ地震 香川液状化対策コンソーシアム
- ・ 四国の奥山自然再生協議会準備会

kintone

ローカルSDGs 四国 会員用スペース

お知らせ

ローカルSDGs 四国  
 いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

こちらはローカルSDGs 四国（LS四国）へのご入金並びにkintoneへの登録を完了いただき、誠にありがとうございます。  
 本サイトは、会員の皆様間での販路コミュニケーション、活動の活性化並びに拡大を目指すとして提供させていただきます。

登録、ご活用いただけますと幸いです！！

スレッド

- 事務局からのお知らせ 5/18/23
- お知らせ 5/19/23
- お知らせ 5/20/23
- お知らせ 5/18/23
- お知らせ 5/20/23
- お知らせ 5/18/23
- お知らせ 5/18/23
- お知らせ 5/18/23

サイボウズ株式会社が運営する「kintone」の使用法などを伝えるセミナーを開催。会員の自発的な発信から、円滑なコミュニケーションや連携の強化、今後分科会による取組の展開を期待している。

LS四国の概要や取組紹介、会員情報などを掲載したニュースレター（3号、4号）を発行、ホームページにも掲載した。（<https://ls459.net/?p=4758>）

ローカル SDGs 四国  
 いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

1. 概要

2. 取組

3. 活動

4. お問い合わせ

ローカル SDGs 四国 (LS 四国)  
 いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

0. 概要

1. 取組

2. 活動

3. お問い合わせ

## II-2. 日本NPOセンター・グリーンギフト支援

東京海上日動火災保険（株）が実施するグリーンギフト支援事業として、四国内のNPO、1団体（徳島県上勝町の（一社）かみかつ里山倶楽部）が実施する環境活動イベントの実施を支援した。

事業最終年度となり、中国地方からの実施団体との交流や全国の実施団体との意見交換等を通して、事業の総括を行うことができた。



## II-3. 環境再生保全機構・地球環境基金助成金説明会の開催

（独行）環境再生保全機構が実施する「2023年度地球環境基金助成金説明会」の運営を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、また多様な主体の参加を得るため、Zoomを使ったオンライン接続による運営を行い、27名の参加を得ることができた。

第1部「環境NGO・NPOによる各地域の取組発表」では、過去に助成を受けた2団体「(特非)TOKUSHIMA 雪花菜工房（徳島県）」、「(特非) 由良野の森（愛媛県）」による活動発表があり、助成を受けたことで感じた基金助成の特徴や変化を含めた発表があり、基金を活用した具体的な取組や基金助成を受けることの具体的なメリットを発信する機会となった。また、テーマとして設定した「多様な主体とのパートナーシップ」に関しては、協働する主体の巻き込み方や具体的な協働事例を紹介する機会となった。



「事例発表団体への質疑応答」では、Zoomのブレイクアウトルームを活用し、発表団体と参加者が意見交換できる場づくりを行い、スタッフが進行補助を行い、それぞれから学びあう機会を作ることができた。

第2部「地球環境基金助成金について」、「要望書の書き方」に関する質疑応答では、助成金メニューや要望書作成についてのロジックモデルの組み立て方の説明があり、申請内容にかかる理解を深める機会となった。

### Ⅲ-1. 四国地方 ESD 活動支援センター事業

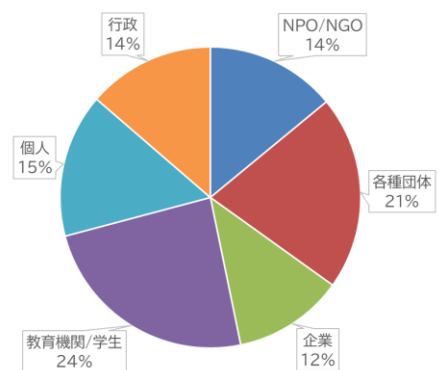
本事業は環境省と文部科学省が協働で設置した四国地方 ESD 活動支援センター（四国 ESD センター）の受託事業である。SDGs の達成に向けた人材育成にもかかる ESD を推進していくことを目標に下記の事業を実施した。

#### (1) 相談対応、情報収集・発信及び対話の場作り

ESD 活動に関する国内外の情報等を収集し、ホームページやメールマガジン、SNS で発信を行った。昨年度に引き続き、月 1 回のラジオでの情報発信等、外部メディアとの連携の機会にも恵まれた。その他、ESD 活動に関するプログラム・資料等を収集し、ESD 活動実践者等の求めに応じて提供を行った。



ホームページにて、イベントや助成金などの情報を発信



相談主体の内訳

#### ■対話の場作り-学び合いプロジェクトの実施-「四国 ESD バーチャル大学」

ESD を軸に、どこにいても、誰でも共に学び合うことができ、学びの可能性を広げ、ネットワークを維持し且つ豊かなものにする機会として、四国 ESD バーチャル大学を開催した。今年度は「気候変動教育」をキーワードとして実施。オンラインと実践、双方からの学びを提供した。

ESD・SDGs ツアー × 気候変動教育	暮らし × 気候変動教育
<p>第1回 「ツアー企画を考えよう！！」 10月21日(金) 16:00~17:30 参加者18名</p> <p>第2回 「ツアーの商品化を進めよう！！」 11月25日(金) 16:00~17:30 参加者19名</p>	<p>「暮らしは断熱でどう変わる?! ワークショップで実践！」 2月25日(土) 10:30-12:00 勉強会 13:30-16:30 ワークショップ 参加者23名</p>





## (2) ESD 活動に関するネットワークの構築

### ア ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

「四国 ESD フォーラム 2023」を新居浜市、新居浜市教育委員会と共同開催し、当日は四国内外から 119 名の参加があった。フォーラムでは「新居浜 ESD for SDGs リレートーク」、「四国ユース ESD×地域 ESD 拠点交流会」、「四国ユース ESD 取組発表」、「地域 ESD 拠点交流会」等のプログラムを通じて、それぞれのテーマで参加者同士が学びあう機会を作ることができた。



あかがねミュージアム



四国ユースESD×地域ESD拠点 交流会の様子①



四国ユースESD×地域ESD拠点 交流会の様子②



### イ ESD 拠点等の ESD 活動の支援及び協働

新たに 3 団体が加わり、四国の地域 ESD 拠点は 20 団体に増えた。(番号は登録順、赤下線は今年度の新規登録団体)

#### 愛媛県

- ① 新居浜市教育委員会
- ③ IKEUCHI ORGANIC 株式会社
- ⑦ 株式会社平野 平野薬局
- ⑧ NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
- ⑭ 一般社団法人ノヤマカンパニー
- ⑯ NPO 法人 どんぐり王国
- ⑰ えひめ森林公園
- ⑱ 株式会社タイチ
- ⑲ 新居浜市生涯学習センター

#### 高知県

- ⑤ 株式会社 土佐山田ショッピングセンター
- ⑥ 室戸ジオパーク推進協議会
- ⑬ 株式会社 相愛

#### 香川県

- ② 高松ユネスコ協会
- ⑨ うどんまるごと循環プロジェクト
- ⑮ 善通寺こどもエコクラブ

#### 徳島県

- ④ 株式会社 ハレルヤ
- ⑩ 一般社団法人そらの郷
- ⑪ パンゲアフィールド
- ⑫ 株式会社 井上組
- ⑲ YMCA 阿南国際海洋センター

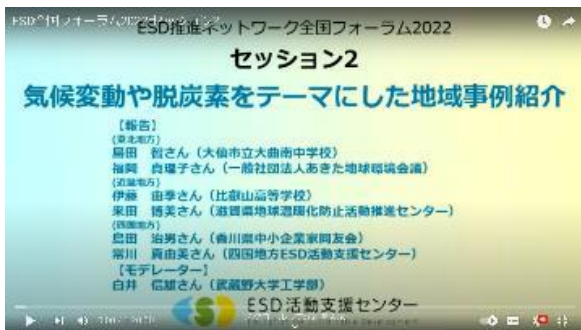


- ・拠点交流会・意見交換会 ①～⑳
- ・ESD 拠点連携事業 ⑩⑬⑯
- ・ESD バーチャル大学参加による連携 ⑨⑩⑭⑮⑯
- ・LS 四国表彰副賞での協力 ③④⑤⑧⑨⑯

## ウ 全国 ESD センターとの連携及び協力

### ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2022

ESD 推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESD に関する最新の国際動向、国内動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学ぶ機会としてハイブリットで開催され、全国から 238 名の参加があった。「分科会 2：気候変動や脱炭素をテーマとした地域事例紹介」においては、企業の視点からの取組紹介を行い、会場からの質疑応答にも対応した。また、ポスターセッションも行われ、四国地域の ESD 拠点や四国 ESD センターの情報を発信した。



#### 四国地方事例報告 「企業における気候変動に対応する 人材育成(環境経営推進)の取組」

2022年12月10日  
一般社団法人  
香川県中小企業家同友会  
副代表理事 島田 治男  
(環境経営委員会)



★このほか、カレンダーや広報誌の作成を通じて活動 PR を行った。★





## III-2. 外務省 NGO 相談員事業

本事業は、より多くの市民や他セクターが国際協力に関心を持てるよう相談対応することを目 的とした外務省委託業務である。全国 15 力所の内「四国ブロック」を担当し、四国にある中小規模・零細規模の NGO が組織強化できるよう情報提供し、四国各県での出張サービス実施、SNS 等を 活用した広報・啓発活動を通じて、ODA や NGO への理解・関心を高めることに注力した。

相談対応業務では、より多くの市民や他セクターが国際協力に関心を持ち、ODA・国際協力に関する理解促進を図ることができるよう相談対応を実施した。相談者は NGO 関係者が最も多く全体の 39%を占めた。次いで、教育関係者と学生・生徒が多く、いずれも約 20%前後を占めた。この結果は、相談内容とも連動しており、NGO 団体・NGO の活動についての相談が最も多く、約 32%となっている。次いで、開発教育・フェアトレード・国際理解が全体の 26%を占めた。

また、地方の NGO が組織強化できるよう意見交換・情報 共有を行い、人材の紹介や助成金情報など、NGO にとって有益な情報を提供した。その結果、経済同友会や中小企業家同友会など企業関係者、小学校から大学や教育委員会など各種教育機関、県や市町レベルの自治体、JICA、大使館、メディアなど多様なセクターと連携することができた。

一般及び他セクターからの相談対応目標の月平均 50 件、地方及び中小 NGO からの相談対応目標の月平均 30 件、合計月平均 80 件を超える、月平均 105 人、86 件の相談対応を行うことができた。出張サービスにおいては、合計 10 回（愛媛県 4 回、高知県 3 回、香川県 2 回、東京 1 回）の出張サービスを実施し、目標件数は達成できた。徳島県での実施には至らなかったが、勉強会を開催するなど出張サービスを代替する機会を設けることができた。

広報面では、SNS による告知・広報を行い、リーチ数月平均目標 900 件、年間 10,800 件のところ、月平均約 1,226 件、年間 14,720 件で大幅に目標を達成することができた。但し、4 月と 6 月は目標未達だったため、発信方法の工夫を行い 7 月以降は毎月 1,000 件を超え、安定した。当団体が作成したチラシを 2,000 枚以上配布し、相談員の広報に努めた。団体事務所の路面側における掲示場所を活用し、国際協力イベント情報や NGO からの広報を常に行い、広く一般市民に普及・啓発することができた。



みなら特別支援学校での講演の様子

令和4年11月4日

外務省国際協力局  
民間援助推進室


特定非営利活動法人  
えひめのグローバルネットワーク

**NGO相談員による出張サービス実施報告**


NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 企画名および企画概要  
 企画名: 「グローバルフェスタJAPAN2022」での相談対応  
 企画実施概要: ①実施内容:「NGO相談員ブース」において、NGO相談員のチラシ配布、来場者の相談対応およびNGO相談員団体の紹介など、国際協力に関する情報を提供した。また、相談対応の質の向上のため、国際協力活動に関する情報収集を行った。  
 ②対象者および参加人数  
 イベント参加者のうち相談対応人数10名
- 2 出張者氏名  
 竹内よし子
- 3 依頼元/主催団体名  
 グローバルフェスタJAPAN2022実行委員会/特定非営利活動法人国際協力NGOセンター
- 4 実施予定日時  
 令和4年10月1日(土) 13:00~17:00
- 5 実施場所  
 東京国際フォーラム ホールE2/ロビーギャラリー  
 (住所:東京都千代田区丸の内3丁目1番1号)
- 6 実施報告  
 国内最大級の国際協力のイベントにおいて、来場者からの国際協力やODA、NGOに関する質問・相談に対応した。各出張団体ブースや来場者にチラシを配布し、NGO相談員制度の周知・広報を行うとともに、当該団体のチラシの配布を通じて、NGO・国際機関・大使館ブース全てから資料・パンフレット等、新たな情報を収集し、今後、広報や学習に活用する国際協力推進策での相談対応および四国での国際協力活動の活性化に役立てられるよう情報整理を行った。  
 参加者からは、以下のような感想を寄せられた。  
 ・「私を誘っている中で、国際協力の情報を一気に得られる機会となり、参考になった。」  
 ・「SNS キャンペーンを集める国際協力活動から一歩踏み出すことを考える機会となった。」  
 ・「NGOの誇りフェアトレード商品もいろいろな種類があって興味深かった。」



企業のSDGアンバサダーと相談対応



相談対応の様子

以上

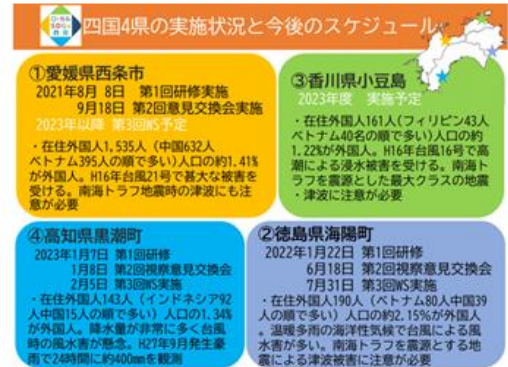
出張サービス実施報告書 (外務省 HP で公開)





### Ⅲ-3. JICANGO 提案型事業・多文化共生型の減災社会づくり実践研修

本事業は、JICA 四国との連携で 2021 年度より開始した。研修は、世界や地域で防災や災害支援に携わってきた講師を招き、国内外の減災や多文化共生の方法を学ぶとともに、四国各県においてそれぞれ想定される災害や、地域の在住外国人の状況（在留種別や人口比）などに合わせ、防災・減災教育を一緒につくり、在留外国人向けワークショップを実施するなど、2021～2023 年度にかけて 10 回の研修を開催する。



この研修実施を通じて、自助・共助を推進できる人材育成や四国の災害特性と減災対策の把握、平時からの四国における減災・多文化共生ネットワークの形成、在住外国人向けの防災・減災教育プログラムづくりを目指している。



2022 年度は、対面研修・現地視察とワークショップを徳島県海陽町、高知県黒潮町で実施し、オンラインにてネットワーク構築研修を実施した。徳島県、高知県の研修・ワークショップとも高校生が中心となり、参加した外国人に対してコミュニケーションを取り、研修を進めていた。

海陽町の研修で起震車体験をした外国人からは会社で防災訓練しているが地震体験は初めてで「いい体験」「良かった」。海陽町、黒潮町の研修で共通した感想では外国人からは研修で学んだことを仲間や会社で伝えたい、高校生からはやさしい日本語で必要な情報をいかに伝えるか、取り残されない配慮が防災では大切、外国人視点で伝えることの難しさや重要性を感じた、など感想を得られた。一般参加者からは高校生が主体的に研修に参加している様子を見て研修の重要性やコミュニケーションの大切さを感じた、など普段接することのない外国人や高校生との研修に参加に良い評価を得られた。

一方で研修時間に対して内容を詰めすぎた感があるとの意見もあり、次回の研修企画時に参考にしていきたい。徳島県、高知県とも自治体と地元 NGO/NPO 団体が企画段階から積極的な関わりを頂けたおかげで研修実施が計画通りできたと感じている。今後の開催地でも自治体や地元 NGO/NPO 団体が主体的に参画頂けるよう企画段階からコミュニケーションを図り、役割の明確化を早い段階から図り、積極的に研修に参加する関係性を構築していきたい。




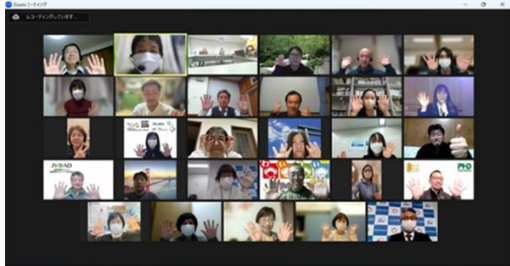
## 徳島県海陽町研修内容

研修実施報告（徳島開催・第2回）	研修実施報告（徳島開催・第3回）
<p> <b>海陽町</b></p> <p>【日時】2022年6月18日現地、一部オンライン(36名)            【講師】山崎 水紀夫氏 さんすい防災研究所            講演内容：第1回のふりかえり            →災害を知る。洪水・土砂災害・地震など            日本（四国）で起きる災害の基礎知識を学ぶ            【共催】徳島県国際交流協会（TOPIA）            【現地視察】海部高校避難施設            穴喰津波避難タワー</p>	<p> <b>海陽町</b></p> <p>【日時】2022年7月31日現地(41名)            【講師】山崎 水紀夫氏 さんすい防災研究所            【共催】徳島県国際交流協会（TOPIA）            【内容】AM:WS開催に向けた意見交換、感謝状授与            PM:在住外国人向けWS、ふりかえり</p> <p>【気づき・感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外国人           <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社で防災訓練しているが地雷体験は初めてで「いい体験」「良かった」。</li> <li>・会社の防災訓練や日本語の授業の時に、今日学んだことを教えたい。</li> <li>・また研修チャンスがあれば、技能実習生に申込方法を伝えたいし、伝えてもらいたい。</li> </ul> </li> <li>●高校生           <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な日本語が技能実習生には伝わりやすいことが分かった。</li> <li>・高校生と外国人がもっと交流できる機会をつくりたい。</li> <li>・外国人だけでなく子どもやお年寄りにも伝えたい。</li> <li>・外国人へ情報をうまく行き届かせ、とり残されない配慮が防災では大切だと気付いた。</li> <li>・自分の言葉や手帳を伝えられるが不安だったが、楽しく体験して活動できてよかった。</li> </ul> </li> </ul>

## 高知県黒潮町研修内容

研修実施報告（高知開催・第1回、第2回）	研修実施報告（高知開催・第3回）
<p> <b>黒潮町</b></p> <p>【日時(第1回)】2023年1月7日(11名)            【講師】            山崎 水紀夫氏 さんすい防災研究所            講演内容：命をつなぐ避難所運営            松尾 沢子氏 JANIC            講演内容：多文化共生型の減災社会づくりに向けて            ～被災した人びとの尊厳と権利を大切に            国際基準の活用に向けて～            山上 正道氏 AMDA社会開発機構            講演内容：国内外の災害支援活動の紹介と災害時に備える            活動のための研修と実践</p> <p>【日時(第2回)】2023年1月8日（15名）            【現地視察】佐賀地区津波避難タワー            【ガイド】かかりがま士会</p>	<p> <b>黒潮町</b></p> <p>【日時】2023年2月5日黒潮町役場(44名)            【講師】山崎 水紀夫氏 さんすい防災研究所            【共催】黒潮町役場            NPO砂浜美術館            【内容】AM:WS開催に向けた意見交換、感謝状授与            PM:在住外国人向けWS、ふりかえり</p> <p>【気づき・感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外国人           <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災について初めての参加だったが、よく分かって嬉しかった。</li> <li>・他の人に教えてあげたい。</li> </ul> </li> <li>●高校生           <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語が通じなく、自分にとってはコミュニケーションが一番の壁だったが、外国人は私たちの身振り手振りを見て手伝ってくれた。</li> <li>・外国人と関わる機会がなく、外国人に対しては壁があったが、実際に話をするとラフに話ができ、楽しかったので今後も積極的に関わってほしい。</li> </ul> </li> <li>●一般参加者           <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生達の教え方がとてもスムーズで上手だった。</li> <li>・防災や多文化共生など、今まで別々にとらえられていたものが少しずつ繋がって考えられる                取り組みが増え、自分自身まだまだ学びたい、さらには環境問題、持続可能性とも繋がって                いくと思う。</li> </ul> </li> </ul>

12月に開催したオンライン研修では防災と多文化共生の視点で講師に講演を頂き、災害時に機能する平時からのネットワーク構築の重要性を参加者と共有することができた。研修以降、多文化共生事業に関わる団体を中心となり、ウクライナ避難民支援の現状と四国の多文化共生社会づくりを考える情報共有会と勉強会を開催し、四国4県の自治体からウクライナ避難民受入れ状況について説明を頂き、現状を共有した。その後も情報共有会を開催し、今後の四国における多文化共生ネットワーク構築に向けた関係づくりを進めている。

研修実施報告（オンライン研修）	
<p> <b>研修実施報告（オンライン研修）</b></p> <p>【日時】2022年12月14日(24名)            【講師】山崎 水紀夫氏 さんすい防災研究所            講演内容：四国のネットワーク構築に向けて            坂西 卓郎氏 PHD協会            講演内容：多文化共生はネットワークが命            明城 徹也氏 JVOAD            講演内容：JVOADの活動紹介とNPO等の被災者支援</p> <p>【気づき・感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な職種の方が集まっているので、いろいろな角度からの情報や意見を集めることができそれを生かしてより良いものが出来上がっていくと感じた。</li> <li>・このような機会を設けて意見交換しながら関係を築いていくことが良いと思った。</li> <li>・意見交換の時間は足りなかったように感じた。</li> <li>・様々な団体からお話を聞くことができる良い機会となった。</li> <li>・平時にこのような研修やイベントを行い、繋がりを維持していくことが必要だと思った。</li> <li>・災害発生時に在住外国人がどのような問題に直面するかについて、それを解決していくためにはどのようなことが必要であるかを学ぶためには別に時間をしっかり設けた方が良いのではないかなと思った。</li> </ul>	



### Ⅲ-4. 愛媛県・えひめ森林公園 ESD プログラム作成業務

えひめ森林公園 ESD プログラムの教材を活用した児童及び指導者向けのプログラムの実施を通じて、豊富な自然の中で SDGs を学ぶことができる施設としてえひめ森林公園の認知度向上を図るとともに、森林・林業に関する知識の習得、体験等を通じて持続可能な社会づくりに取り組む人材の育成を目的に昨年度に引き続き実施した。

#### (1) 児童向けプログラム企画・運営

本年度は次のとおり、伊予市の小学校3校がプログラムを実施した。

- ① (6月9日)「森の働きを知ろう！」=伊予小学校5年生(2クラス65名)
- ② (10月19日)「ドングリと遊ぼう！」=翠小学校1年生(3名)  
「木の特性を知ろう！」=翠小学校3・4年生(4名)
- ③ (11月7日)「シイタケについて知ろう！」=由並小学校5年生(12名)、6年生(8名)



#### (2) 指導者向け研修プログラム企画・運営

- ① 伊予市9小学校学校主任への研修(5月9日)
- ② えひめ森の案内人会への運営研修(5月19日)
  - ・ ESDに関する情報提供
  - ・ えひめ森林公園の取組
  - ・ えひめ森林公園を活用した ESD プログラムのご紹介





### Ⅲ-5. 東雲 ESD コミュニティファーム活動報告

6月8日(水)に東雲小学校2年生児童60名とともに東雲公園の一部を活用し、「えひめ311」や「森からつづく道」のNPO、愛媛大学生有志とともにサツマイモの苗を植え、世界のサツマイモクイズ、昆虫など生物とのふれあい、防災につながる東雲コミュニティファームの説明など授業を行った。



6~11月までの間は東雲小学校児童たちが自主的に水やり、草引きに参加し、愛媛大学インターン生、えひめ311、えひめグローバルネットワークスタッフが随時対応して、サツマイモの生育観察等を行った。

11月9日(水)にサツマイモの収穫とサツマイモクイズ、東雲公園内の植物の学習を行った。大学生やNPO関係者とともに、地域連携によるESD実践を進めることができた。



NPO、小学校、大学と地域が繋がるESDの実践の場として、東雲ESDコミュニティファームが継続していくよう多世代が参加するプログラムを関係者と連携して企画、実施をしていきたい。



写真はBof活動報告から引用

東雲公園で子どもたちが収穫したサツマイモのツルを利用してBofメンバーとともにクリスマスリースを制作し、愛媛大学主催SDGsクリスマスイベントで出展を行った。



### Ⅲ-6. 講師派遣および持続可能な開発のための教育(ESD) 普及啓発

2022年4月～2023年3月の期間中、70回の講演・講師等を実施しのべ5,247名に対しESDを伝える機会を得た。その内容は以下のとおり。

No	月	日	曜日	名称	内容	参加者・対象	対象人数	担当者	事業名
1	5	10	火	ボランティア講和	SDGs概論、ESDセンターについて	学生、蓮井さん	50	宇賀神	四国ESDC
2	5	13	金	たちばな小学校	平和の語り部	小学6年生	89	竹内	平和の語り部
3	5	14	土	土曜日授業	SDGs概論、ESDセンターについて	小学6年生	43	宇賀神、坂本	四国ESDC
4	5	20	金	NPO/NGOの組織基盤強化のためのワークショップ	ファシリテーター	NPO等	20	常川	四国EPO
5	6	7	火	松山短期大学	国際協力・NGO/NPOについて	短期大学1年生	30	竹内	NGO相談員
6	6	16	木	香川大学	SDGs概論、ESDセンターについて	大学生、教員	200	宇賀神	四国ESDC
7	6	23	木	新居浜市生涯学習大学 世界知ってク・なっとク講座	新型コロナウイルス感染症とNGO活動の現状	市民	9	竹内、小松	EGN
8	6	23	木	香川大学全学共通科目「身の回りの環境問題B」	SDGsに関する講演	大学生、教員	180	亀山	四国EPO
9	6	25	土	愛媛県立みなら特別支援学校	平和な社会づくりと国際協力	高校生1-3年生、保護者	200	竹内	NGO相談員
10	7	6	水	高知県SDGs推進アドバイザー	土佐ガス(株)①	企業	2	常川	四国EPO
11	7	8	金	聖カタリナ大学	寄付講座「国際交流国際協力とSDGs」(公開講座「風早の塾」講師)	人間健康福祉学部1-4年生、市民	89	竹内	EGN
12	7	8	金	香川県立高松商業高等学校	SDGs概論、ESDセンターについて	高松商業高校3年生、教員	27	宇賀神	NGO相談員
13	7	8	金	香川県立高松商業高等学校	SDGs概論、ESDセンターについて	高松商業高校3年生、教員	30	宇賀神	四国ESDC
14	7	9	土	NICETOWN GREAT RESET PROJECT	四国EPOやLS四国の取組紹介	企業、市民等	30	亀山	四国EPO
15	7	11	月	松山北高等学校	ワークショップと講演	高校1、2年生	20	竹内	MIC-ESD
16	8	1	月	高知県SDGs推進アドバイザー	SDGs取組についてアドバイス	企業	2	常川	四国EPO
17	8	18	木	新居浜市生涯学習大学 世界知ってク・なっとク講座	モザンビーク・パラリンピック選手との交流を深めよう	市民	8	小松	EGN
18	9	8	木	北条小学校	平和の語り部	小学6年生	87	竹内	平和の語り部
19	9	8	木	土佐ガスSDGsアドバイザー	土佐ガス(株)③	企業	2	常川	四国EPO
20	9	9	金	西日本豪雨被災者支援2018報告会		企業、大学関係者、支援者	30	竹内	EGN
21	9	9	金	2022年度「管理職研修」	「SDGsと企業価値向上」をテーマに講演	企業	30	常川	四国EPO
22	9	14	水	垣生小学校	貿易ゲームと講演	小学6年生(3組35名、4組34名)	69	竹内、重松	MIC-ESD
23	9	15	木	垣生小学校	貿易ゲームと講演	小学6年生(1組35名、2組34名)	69	竹内、重松	MIC-ESD
24	9	28	水	味生第二小学校	フィリピンの紹介	小学5年生	90	Community Life 松本さん	MIC-ESD
25	10	14	金	北吉井小学校	平和学習	小学6年生(4クラス)、教員	88	竹内	平和の語り部

No	月	日	曜日	名称	内容	参加者・対象	対象人数	担当者	事業名
26	10	16	日	SDGs講習会+ワークショップ	SDGs講演とワークショップ	企業	16	常川、坂本	四国EPO
27	10	25	火	香川県立善通寺第一高等学校中間報告会	探求学習中間報告会の指導助言	高校2年生	53	宇賀神	四国ESDC
28	10	26	水	香川県立高松西高等学校中間報告会	探求学習中間報告会の指導助言	高校2年生	36	宇賀神	四国ESDC
29	10	23	日	国際交流市民ボランティア入門講座	NGO相談員出張サービス	市民	6	竹内	NGO相談員
30	10	28	火	味生第二小学校	名古屋のフィリピン支援NGOと交流	小学5年生	90	Community Life 松本さん	MIC-ESD
31	10	31	月	香川高等専門学校	SDGs概論、ESDとSTEAM教育について	企業、教員	11	宇賀神	四国ESDC
32	11	3	木	高知県立高知小津高校	NGO相談員出張サービス	高校1-3年生	46	竹内	NGO相談員
33	11	4	金	高知県立清水高校	NGO相談員出張サービス	高校1年生	49	竹内	NGO相談員
34	11	4	金	1年生「現代の国語」でのSDGsおよび貧困・環境・ジェンダーの問題について	SDGsと環境に関する授業	高校1年生	49	常川	四国EPO
35	11	14	月	令和4年度消費者団体との意見交換会(香川県)	事例紹介	消費者団体等	13	宇賀神	四国ESDC
36	11	21	月	四国大学エコライフ論・生活環境学講義	SDGs理解・気候変動及びカーボンニュートラルの国内外の動向	大学生	80	常川、坂本	四国EPO
37	11	28	月	地域脱炭素ネットワークングイベント	地方自治体プレゼン・マッチング	自治体、企業	200	常川	四国EPO
38	12	15	金	新居浜市生涯学習大学 世界知ったク・なっとク講座	多文化共生・新居浜と世界のつながりを考えよう!	市民	12	常川	EGN
39	12	7	水	令和4年度「消費生活講座」～県と愛媛大学との連携講座～	フェアトレードと消費者教育	大学生及び一般聴講生	21	竹内	EGN
40	12	12	月	WWLコンソーシアム構築支援事業	地域を多角的な観点から探求する授業「SDGs井豫学」の指導・助言	高校1年生、教員	126	竹内	EGN
41	12	18	日	SDGs研修	SDGs研修	企業	16	常川、坂本	四国EPO
42	1	13	金	清水小学校	モザンビーク支援活動と国際交流	小学6年生	77	竹内	MIC-ESD
43	1	26	木	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	ユネスコスクールとモザンビーク支援	小学6年生	86	竹内	MIC-ESD
44	1	26	木	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	ユネスコスクールとモザンビーク支援	小学4年生	87	モザンビークSDGs勉強会 木村さん	EGN
45	1	26	木	愛媛県立松山北高等学校	多文化共生社会とモザンビークの現状	高校2年生	250	菅	NGO相談員
46	1	26	木	愛媛県立松山北高等学校	多文化共生社会とモザンビークの現状	高校2年生	250	光宗	MIC-ESD
47	1	27	金	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	モザンビークの「衣」と音楽	小学1年生	105	竹内	EGN
48	1	27	金	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	モザンビークの「衣」と音楽	小学1年生	105	モザンビークSDGs勉強会 木村さん	MIC-ESD
49	1	27	金	男女共同参画講座	SDGsと男女参画のススメ～ジェンダーの視点から～	職員	17	竹内	EGN
50	1	27	金	令和4年度JA共済職員視察研修	SDGsと企業価値向上	企業	33	常川	四国EPO
51	1	29	日	小豆島町外国人防災訓練・災害時外国人支援ボランティア研修交流	小豆島町の人と交流しよう!	市民、在住外国人他	30	常川、宇賀神、光宗	EGN
52	1	30	月	味生第二小学校	フィリピンとオンライン交流	小学5年生	90	Community Life 松本さん	MIC-ESD
53	1	31	火	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	モザンビークの「食」と水	小学2年生	83	モザンビークSDGs勉強会 木村さん	MIC-ESD
54	1	31	火	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	ユネスコスクールの一員として自分にできることを考え実行する気持ちを育む	小学2年生	83	甲田	EGN
55	1	31	火	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	モザンビークの「住」と水	小学3年生	91	竹内	MIC-ESD



No	月	日	曜日	名称	内容	参加者・対象	対象人数	担当者	事業名
56	1	31	火	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	モザンビークのスポーツと水	小学4年生	87	モザンビークSDGs勉強会 木村さん	MIC-ESD
57	1	31	火	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	モザンビークの今と水	小学5年生	90	竹内	MIC-ESD
58	2	2	木	とくしまフューチャーアカデミー 2022パブリックコメント勉強会	とくしまフューチャーアカデミー 2022パブリックコメント勉強会	とくしまフューチャーアカデミー 受講生およびピアサポーター とくしまピアサポーター	17	竹内	EGN
59	2	2	木	令和4年度KIP(高知家移住促進 プロジェクト)第4回定例会	LS四国紹介	NPO等	25	常川	四国EPO
60	2	7	火	香川県立善通寺第一高等学校 最終報告会	探求学習最終報告会の指導 助言	高校2年生、教員、指 導助言者	203	宇賀神	四国ESDC
61	2	8	水	香川県立高松西高等学校最終 報告会	探求学習最終報告会の指導 助言	高校1、2年生	601	宇賀神	四国ESDC
62	2	8	水	松山北高等学校	木村元・在モザンビーク日本大使 館特命全権大使とのユース交流 会	海外研究部員、教員、Bof メンバー	16	竹内	MIC-ESD
63	2	9	木	木村大使講演	モザンビーク大使館・外交官の仕 事	小学6年生	86	竹内	MIC-ESD
64	2	14	火	令和4年度第3回ビジネスにつな げるこうちSDGs推進セミナー	パネルディスカッション	企業、市民等	178	常川	四国EPO
65	2	15	水	高知県SDGs推進アドバイ ザー	(株)土居建設①	職員	3	常川	四国EPO
66	2	19	日	第3回委員会	組合で取り組むSDGs事業	企業	10	常川	四国EPO
67	2	27	金	高浜小学校	キャリア教育	小学6年生	40	竹内	EGN
68	2	28	火	高知県SDGs推進アドバイ ザー	(株)土居建設①	職員	3	常川	四国EPO
69	3	12	日	第4回香川県高校生探究発表会	探求学習発表の指導助言	21校生徒、教員	180	宇賀神	四国ESDC
70	3	13	月	高知県SDGs推進アドバイ ザー	(株)土居建設①	職員	3	常川	四国EPO

※上記以外で、四国4県の委員やイベント展示等多数参画した。

## Ⅲ-7. 協働オフィス運営と中間支援機能強化について

2022年度は、当団体が運営する協働オフィス（松山市東一万町2第3森ビル1F）を、特定非営利活動法人えひめ311および特定非営利活動法人えひめリソースセンターとともに活用した。日本・モザンビーク市民友好協会については、事務局運営を行い、パラリンピック選手団やBridge of Friendshipの交流活動支援を行った。上記以外で、松山市平和資料展をはじめ、四国4県の委員やイベント展示等へ参画した。



ボランティア高校生3名とスタッフ



展示スペース

## IV. 管理運営等

### 1. 組織運営

#### (1) 事務局運営

本部・愛媛県松山市および香川県、徳島県、高知県の四国 EPO 事業実施のため、常勤および非常勤の人材を新規ならびに継続雇用し事務局の体制を整えた。

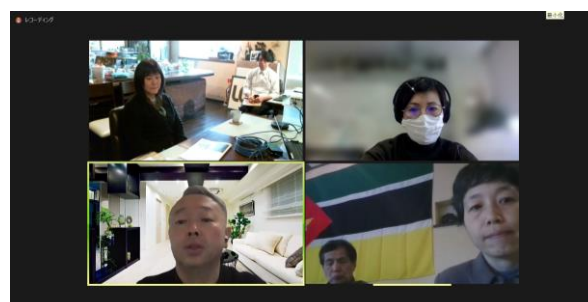
#### (2) 役員体制

2022 年度は以下の役員体制とし、役員間のコミュニケーションについては、理事メールや WEB 会議を活用しながら意見交換を図り、理事会は、第 1 回 6 月 11 日、第 2 回 7 月 20 日、第 3 回 10 月 22 日、第 4 回 1 月 20 日の日程で年に 4 回開催した。

役職名	氏名	所属他
代表理事	竹内 よし子	えひめグローバルネットワーク代表理事
理事	常川 真由美	えひめグローバルネットワーク常任理事(四国 EPO 所長)
〃	亀山 公美子	えひめグローバルネットワーク常任理事(四国 EPO 事務局長)
〃	上田 稔	学校法人聖カタリナ学園財務理事法人事務局長
〃	小松 柊成	新居浜グローバルネットワーク代表
〃	森 源二郎	四国糧油株式会社代表取締役社長
監事	鈴木 靖彦	J A えひめ中央
顧問	薦田 伸夫	弁護士
〃	堀田 学	社会保険労務士

#### (3) 休眠預金

理事会で休眠預金の申請について検討し、11 月に通常枠の資金分配団体へ申請したが、残念ながら不採択となったが、資金調達に関する勉強会を 3 月 15 日に開催し、関係者との学びあいと方向性について意見交換を行った。



## 2. 決算報告

### (1) 活動計算書

活動計算書		2022年4月1日～2023年3月31日	
特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク		(単位：円)	
科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員会費	340,000		
協力会員会費	54,000	394,000	
2. 受取寄付金		630,631	
3. 事業収益			
事業収益	2,467,560		
受託事業収益	46,526,104	48,993,664	
4. その他収益			
受取利息		4,197	
	経常収益計		50,022,492
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与	23,864,114		
法定福利費	2,724,557		
福利厚生費	16,928		
	人件費計	26,605,599	
(2) その他経費			
売上原価	219,240		
業務委託費	2,844,375		
諸謝金	4,384,940		
外注費	1,282,000		
印刷製本費	721,678		
会議費	32,870		
旅費交通費	3,466,464		
通信運搬費	1,996,315		
消耗品費	566,585		
修繕費	2,200		
水道光熱費	238,394		
地代家賃	35,752		
賃借料	1,022,501		
減価償却費	349,112		
保険料	127,965		
諸会費	225,375		
新聞図書費	207,225		
租税公課	2,241,300		
支払手数料	115,706		
支払利息	167,694		
	その他経費計	20,247,691	
	事業費計		46,853,290



科目	金額	
2. 管理費		
(1) 人件費		
給与	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
諸謝金	120,000	
印刷製本費	30,788	
会議費	16,905	
旅費交通費	13,393	
通信運搬費	122,751	
消耗品費	24,494	
修繕費	20,000	
水道光熱費	42,242	
賃借料	5,906	
減価償却費	66,210	
保険料	6,180	
諸会費	21,475	
租税公課	38,509	
支払手数料	1,485	
その他経費計	530,338	
管理費計		530,338
経常費用計		47,383,628
当期経常増加額		2,638,864
Ⅲ. 経常外収益		0
Ⅳ. 経常外費用		
修繕引当金繰入額		600,000
税引前当期正味財産増加額		2,038,864
法人税、住民税及び事業税		385,500
当期正味財産増加額		1,653,364
前期繰越正味財産額		16,891,555
次期繰越正味財産額		18,544,919

※その他の事業は実施していません。

## (2) 財産目録

財産目録  
2023年3月31日

特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金		299,222	
普通預金			
伊予銀行/緑台支店①	542,621		
伊予銀行/緑台支店②	240,002		
愛媛銀行/道後支店①	599,353		
愛媛銀行/道後支店②	87,071		
愛媛信用金庫/本店営業部①	536,201		
愛媛信用金庫/本店営業部②	121,508		
みずほ銀行/松山支店	63,013		
百十四銀行/松山支店	99,723		
四国労働金庫/松山支店	539,587		
ゆうちょ銀行/六一八支店	81,228		
ゆうちょ銀行/一六九支店①	390,691		
ゆうちょ銀行/一六九支店②	18,751	3,319,749	
未収金			
環境省中国四国地方環境事務所	12,125,177		
(独)国際協力機構四国センター	1,560,544		
外務省	377,737		
高知県計画推進課	69,000		
(公財)松山国際交流協会	166,000		
(株)JATS	13,499		
会員会費	80,000	14,391,957	
販売用商品		373,910	
前払費用		358,197	
立替金		7,800	
	流動資産計		18,750,835
2. 固定資産			
土地		8,400,000	
建物			
事務所及びカフェ	6		
モザンビーク公民館	5,115,797	5,115,803	
建物付属設備		265,207	
構築物		1,308,362	
工具器具備品			
事務所事務機器等	4		
カメラ	1		
パソコン	437,664	437,669	
	固定資産計		15,527,041
	資産合計		34,277,876

科目	金額		
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払法人税等		385,500	
未払消費税等		453,000	
未払金			
職員給料	1,953,412		
社会保険料	277,273		
事務所諸経費	1,060,643	3,291,328	
前受金			
継続事業収益	1,212,179		
モザンビーク支援寄付金	218,666	1,430,845	
短期借入金			
愛媛銀行/道後支店		4,000,000	
預り金			
社会保険料	319,622		
源泉所得税	218,892		
住民税	46,600		
SNN預り金	39,670		
その他	2,500	627,284	
流動負債計			10,187,957
2. 固定負債			
長期借入金			
愛媛銀行/道後支店	2,445,000		
愛媛信用金庫/本店営業部	900,000	3,345,000	
修繕引当金		2,200,000	
固定負債計			5,545,000
負債合計			15,732,957
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		16,891,555	
当期正味財産増加額		1,653,364	
正味財産合計			18,544,919
負債及び正味財産合計			34,277,876

※その他の事業は実施していません。



## (3) 貸借対照表

貸借対照表  
2023年3月31日

特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク

(単位：円)

科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金	299,222	
普通預金	3,319,749	
未収金	14,391,957	
販売用商品	373,910	
前払費用	358,197	
立替金	7,800	
流動資産計		18,750,835
2. 固定資産		
土地	8,400,000	
建物	5,115,803	
建物付属設備	265,207	
構築物	1,308,362	
工具器具備品	437,669	
固定資産計		15,527,041
資産合計		34,277,876
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
未払法人税等	385,500	
未払消費税等	453,000	
未払金	3,291,328	
前受金	1,430,845	
短期借入金	4,000,000	
預り金	627,284	
流動負債計		10,187,957
2. 固定負債		
長期借入金	3,345,000	
修繕引当金	2,200,000	
固定負債計		5,545,000
負債合計		15,732,957
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産		16,891,555
当期正味財産増加額		1,653,364
正味財産合計		18,544,919
負債及び正味財産合計		34,277,876

※その他の事業は実施していません。

#### (4) 計算書類の注記

##### ① 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（2010 年 7 月 20 日 2017 年 12 月 12 日最終改正 NPO 法人会計基準協議会）によっています。

##### A. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は最終仕入原価法によっています。

##### B. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法を採用しています。

但し、平成 10 年 4 月 1 日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）及び平成 28 年 4 月 1 日以降に取得した建物附属設備並びに構築物については、定額法を採用しています。

無形固定資産 定額法を採用しています。

##### C. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み経理方法によっています。

##### ② 事業別損益の状況

事業別損益の状況は下記の通りです。

(単位：円)

科目	国際協力 教育・ネットワーク事業	販売事業	環境事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I. 経常収益</b>						
1. 受取会費						
正会員会費				0	340,000	340,000
協力会員会費				0	54,000	54,000
2. 受取寄付金	630,631			630,631	0	630,631
3. 事業収益						
事業収益	2,163,440	304,120		2,467,560	0	2,467,560
受託事業収益	10,501,421		36,024,683	46,526,104	0	46,526,104
4. その他収益						
受取利息				0	93	93
経常収益計	13,295,492	304,120	36,024,683	49,624,295	394,093	50,018,388
<b>II. 経常費用</b>						
(1) 人件費						
給与	2,781,316		21,082,798	23,864,114		23,864,114
法定福利費	329,316		2,395,241	2,724,557	0	2,724,557
福利厚生費			16,928	16,928	0	16,928
人件費計	3,110,632	0	23,494,967	26,605,599	0	26,605,599
(2) その他経費						
売上原価		219,240		219,240	0	219,240
業務委託費	1,740,000		1,104,375	2,844,375	0	2,844,375
諸謝金	3,038,440		1,346,500	4,384,940	120,000	4,504,940
外注費	820,000		462,000	1,282,000	0	1,282,000
印刷製本費	148,172		573,506	721,678	30,788	752,466
会議費	25,698		7,172	32,870	16,905	49,775
旅費交通費	1,464,346		2,002,118	3,466,464	13,393	3,479,857
通信運搬費	401,893	9,113	1,585,309	1,996,315	122,751	2,119,066
消耗品費	201,844		364,741	566,585	24,494	591,079
修繕費			2,200	2,200	20,000	22,200
水道光熱費	148,951		89,443	238,394	42,242	280,636
地代家賃			35,752	35,752	0	35,752
賃借料	169,747		852,754	1,022,501	5,906	1,028,407
減価償却費	297,097		52,015	349,112	66,210	415,322
保険料	100,405	5,000	22,560	127,965	6,180	134,145
諸会費	87,000		138,375	225,375	21,475	246,850
新聞図書費	2,180		205,045	207,225	0	207,225
租税公課	577,651	5,241	1,658,408	2,241,300	38,509	2,279,809
支払手数料	89,480	1,201	25,025	115,706	1,485	117,191
支払利息			163,590	163,590	0	163,590
その他経費計	9,312,904	239,795	10,690,888	20,243,587	530,338	20,773,925
経常費用計	12,423,536	239,795	34,185,855	46,849,186	530,338	47,379,524
当期経常増減額	871,956	64,325	1,838,828	2,775,109	△ 136,245	2,638,864

### ③ 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	増加	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
土地	8,400,000	0	0	8,400,000	0	8,400,000
建物	6,565,842	0	0	6,565,842	1,450,039	5,115,803
建物附属設備	869,203	0	0	869,203	603,996	265,207
構築物	1,495,269	0	0	1,495,269	186,907	1,308,362
工具器具備品	807,608	489,677	0	1,297,285	859,616	437,669
合計	18,137,922	9	0	18,627,599	3,100,558	15,527,041

### ④ 借入金の内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金				
愛媛銀行 道後支店	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
長期借入金				
愛媛銀行 道後支店	3,105,000	0	660,000	2,445,000
愛媛信用金庫 本店営業部	1,500,000	0	600,000	900,000
日本政策金融公庫 松山支店	720,000	0	720,000	0
合計	9,325,000	4,000,000	5,980,000	7,345,000



### 3. 監査報告

#### 監査報告書

特定非営利活動法人  
えひめグローバルネットワーク  
代表理事 竹内 よし子 様

2023年 5月 22日

特定非営利活動法人  
えひめグローバルネットワーク

監事 鈴木 靖彦 

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク定款第7章第49条に基づき、2022年度事業報告書、活動計算書、貸借対照表および財産目録など決算に関する書類を監査し、記帳簿の計算が正確であって記載に誤りがなく、適正に処理していることを証明します。

以上

## 4. 広報活動

会員メルマガ、HP、Facebook、インスタグラムを活用し、イベント等の情報発信を行った。各種メディアの取材に応じ、新聞・テレビ・ラジオ等において EGN の諸活動、他の市民活動の広報を積極的に行い、NPO/NGO 活動への理解や参加促進を図った。以下に、メディア等に掲載された EGN ならびに四国 EPO、四国 ESD センター関連記事・情報を一覧にしたものである。

発行日	メディア媒体	内容
2022年 4月6日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「四国 EPO 紹介」（四国 ESD センター）
4月11日	金融庁広報紙アクセス FSANo. 224 2022年4月号	持続可能な地域経済社会の活性化に向けた 金融庁と環境省との連携チームの取組み（四国 EPO）
5月4日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「高校生の SDGs」（四国 ESD センター）
5月31日	月刊誌コロムブス	元気のでる地域連携塾「四国における持続可能な地域経済社会を目指し「ローカル SDGs 四国」が始動！！」（四国 EPO）
6月1日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「ユニセフのウクライナ支援」（四国 ESD センター）
6月	財務省大臣官房地方課「全国財務局の地域連携事例集(令和3年度)」	「地域の持続的発展に向けて四国での SDGs 推進を支援」（四国 EPO）
6月29日	月刊誌コロムブス7月号	元気のでる地域連携塾「うどんまるごと循環プロジェクト」（四国 EPO）
7月1日	愛媛新聞	平和資料展アフリカ・モザンビーク支援の取組み紹介
7月6日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「食品ロス」（四国 ESD センター）
8月3日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！テーマ「環境保全活動のための支援事業」（四国 ESD センター）
9月7日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「SDGs イベント」（四国 ESD センター）
10月5日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「LS 四国紹介」（四国 ESD センター）
11月2日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「多文化共生と防災」（四国 ESD センター）
11月	広報とさしみず令和4年12月(No. 590)	清水高校で SDGs について講演（EGN、四国 EPO）
11月	高知県教会会「望星」第32号	寄稿「私たちのくらしとエスディーゼーズ」（EGN、四国 EPO）
12月7日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「海洋プラスチック」（四国 ESD センター）
12月27日	日本経済新聞	文化「武器をアートに」未永く～内戦終結後のモザンビークと愛媛結ぶプロジェクトを支援～（EGN）
2023年 1月4日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「中学生の SDGs」（四国 ESD センター）
1月10日	愛媛県地球温暖化防止活動推進センターECCCA ウェブマガジン	小学生結成 NGO・Bof、モザンビーク留学生インタビュー   愛媛とモザンビークの架け橋になる（EGN）
2月1日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「3R と国際協力」（四国 ESD センター）

発行日	メディア媒体	内 容
2月14日	愛媛県地球温暖化防止活動推進センターECCCA ウェブマガジン	えひめ森林公園・ESD プログラム「シイタケについて知ろう！」(EGN)
3月1日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「ESD まつり」(四国 ESD センター)
3月3日	愛媛新聞	モザンビーク幸せ届けたい「松山中学生が NGO 設立」(EGN)
3月30日	愛媛新聞	Towards2030～愛媛の SDGs～地域交流農場から考える防災(EGN)



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



国連広報センター

<https://www.unic.or.jp/>